

事業概要シート

施策	0203	教育環境の充実	《》の金額	現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く
事業名	学校適応指導教室運営事業		現状維持	14,609 千円
事業期間	平成9年度 ~		予算額	《 14,576 》千円
根拠法令 要綱等	大村市少年センター運営協議会条例 大村市 学校適応指導教室設置要綱		財源内訳	
			国庫支出金	千円
			県支出金	千円
			地方債	千円
			その他	千円
			一般財源	14,609 千円

【事業の目的・概要・対象】

<学校適応指導教室運営事業（あおば教室）>

- (1) 開設の目的
不登校に悩む児童生徒の社会的自立を促すとともに学校復帰への勇気や元気を持つことができるよう支援する。
- (2) 対象児童生徒
①心理的、情緒的要因などで、長期的に学校へ行けない大村市在住の児童生徒
②本人及び保護者が入級を希望し、在籍校の校長が入級適当と認める児童生徒

<小・中学生サポートルーム（conne）>

- (1) 開設の目的
登校しないばかりではなく、家を出ることができない、いわゆる「ひきこもり」の児童生徒を外出させ、活動させることにより、社会との隔たりを生じさせないようにする。
- (2) 対象児童生徒
①長期間学校へ行けない、あるいは家を出ることができない大村市在住の小・中学生
②本人及び保護者が利用を希望する児童生徒

<大村市 不登校対策>

- (1) 教育委員会
①教育相談員（市費）…………… 1名
②スクールソーシャルワーカー（市費）…………… 2名
③スクールソーシャルワーカー（県費）…………… 1名
④学校適応指導教室（市費）…………… 4名
⑤小・中学生サポートルーム（市費）…………… 2名
- (2) 小学校
①スクールカウンセラー（県費）…………… 10校に配置
②心の教室相談員（市費）…………… 13校に配置（中学校と兼務1校）
- (3) 中学校
①スクールカウンセラー（県費）…………… 全6校に配置
②心の教室相談員（市費）…………… 全6校に配置（小学校と兼務1校）

【背景】

- ・平成9年度に、社会教育課の管轄の下、開設された大村市学校適応指導教室（あおば教室）は、不登校対策との一層の連動を図るために、平成22年度から学校教育課へ移管された。
- ・登校できなくなった子どもたちの中には、それでも他者と関わったり、学習を行ったりすることを望む者も多い。あおば教室はそのような子どもたちにとって適切な教育の場であり、生徒の学校復帰を目標としている。
- ・全く学校へ行くことができない児童生徒が社会的な自立を目指すための新たな施設をR3年度に新設した。

担当課	教育委員会 学校教育課	課長	堺 邦寿
担当者	高橋 利昌	問合せ先	(0957)53-4111（内線366）

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	R 3 (実績)	R 4 (計画)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)
①	あおば教室通級児童生徒数 (正式通級者数)	計画値 人	21	25	25	25	25
②	conne利用児童生徒数(正式利用者数) ※R3はR3.4~R4.3の見学者数も含む	計画値 人	67	50	50	50	50

【成果指標】

指標名		単位	R 3 (実績)	R 4 (計画)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)
①	小学校の出現率 (小学生100人あたり不登校児童数)	計画値 %	1.46	0.75	0.75	0.75	0.75
②	中学校の出現率 (中学生100人あたり不登校生徒数)	計画値 %	4.67	3.5	3.5	3.5	3.5

【予算・決算】(千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	合計
事業費	7,722	14,676	14,576	14,609	14,609	14,609	80,801
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他							0
一般財源	7,722	14,676	14,576	14,609	14,609	14,609	80,801
人件費	2,182	2,969	3,029	3,029	3,029	3,029	17,266
職員(人)	0.30人	0.40人	0.40人	0.40人	0.40人	0.40人	2.30人
時間外勤務(h)		30h	60h	60h	60h	60h	270h
会計年度任用職員(人)							0.00人
フルコスト	9,904	17,645	17,605	17,638	17,638	17,638	98,067

妥当性 (市の関与)	大村市在住の児童生徒が対象であり、誰1人取り残さず、社会的に自立をさせるためにも「教育のまち大村」として、これらの施設の運営を重点的に行うことは、当然のことである。
有効性 (施策貢献度)	あおば教室に通級する中学3年生は毎年ほぼ100%高校進学を果たしており、進路保障の面でもなくてはならない場所である。 conne利用者の中には久しぶりに家を出たという者もあり、社会への接続の面でもなくてはならない場所である。
効率性 (コスト)	令和3年度よりconneを正式運用することにより予算が増加したが、既存の物品を活用するなど必要最低限の経費で運営しており、ほとんどが人件費である。 引きこもり対策の施設は「県内初」であり、大村市のイメージアップにも寄与しており、費用対効果は非常に大きい。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価意見のとおり